

キーワードは 近くに人がいなかったら…



～疲れ、急ぎ、焦りが事故のもと～

機械に右腕を 引き込まれる

事故の内容	調苗機に巻き込まれ、カッターで右腕を切断
事故の原因	連続作業の疲労による注意不足と焦り
けがの状況	右腕（ひじ付近）の切断（3週間の入院）

疲労をこらえての作業
調苗機に作物を差し込み中
サトウキビ農家の男性（50代）が圃場でサトウキビの苗付けを行っていたところ、調苗機（苗用にサトウキビを切断する機械）に差し込みすぎて右腕を引き込まれる事故が発生。男性は**右腕切断の重傷**でした。作業が一週間続いてきたことで、**疲労による注意不足と作業を急がなければならぬ焦り**が主な原因と専門家は見ています。「急ぐ・焦るが事故の元。プレッシャーも要注意。天候などを考慮しながら**無理のない作業スケジュールを組むことが事故防止につながる**」と専門家は話します。

事故の教訓と改善策

- ① 作業機の危険な箇所から絶対に目を離さない
- ② 単独作業の場合はスマホのGPS機能や家族の目にふれる場所にスケジュールを掲示するなど、万一の場合でも早期発見につながるよう工夫

迅速な処置と救急要請が可能だったわけ
男性は基本的な止血法を理解していたため、適切な応急処置ができました。また、**ま近くに人がいたことで迅速な止血と救急車の要請が可能**となりました。この事故は、**スマホを持っていても両手を使えない事故に遭う可能性**があることを物語っています。
男性は事故の影響について、「売上金額が前年比三〜四割減になったほか、事故前は豆類の導入など栽培品目の拡大も検討していたが、断念せざるをえず、**中長期の経営計画にも大きな支障が出た**」と語っています。



予防と対策

農業機械の降車時は可能な限りエンジンを止め駐車ブレーキをかける。エンジン停止が難しい場合は走行・作業部を中立にし、一連の作業を指差し確認等で確実に行う

機械が動いている間は、補助を含む作業員全員が近づかないことを徹底

様々な判断を同時に必要とする運搬車の運転は特に注意し、経験の浅い人や高齢者は操作しない

コンバインの畔超えに
気づかず…

自脱コンバインで稲刈りをしてきた男性（70代）が一旦後退しようとしたところ、一五〜二〇センチの低い畦畔に気づかず乗り上げ、水路に転落。男性はとつさに機体から飛び降りたものの、頭上に落下してきたコンバインの排出オーガーが頭頂部に当たり気を失いました。意識が戻り大声で助けを求めたところ、近くの家の友人が助けに駆けつけ家族に連絡。救急搬送され、右足骨折とこめかみの切創で五か月の入院となりました。

近くに人がいることで
防げる事故・助かる命が
あります

こぼれたイモを拾おうと…

使用年数三〇年のトラクターけん引式ポテトハーベスターでジャガイモの収穫中、運転者の男性（30代）がこぼれたイモに気づき降車して拾おうとした際、ハーベスターの左輪に胸部をひかれました。ハーベスター上で選別をしていた家族が叫び声に気づき、トラクターを止めて救急搬送。左肋骨・肩甲骨骨折、肝挫傷、肺挫傷の重傷でした。男性は降車時に走行ギヤを中立にしたかどうかを覚えていないとのことでした。

ブレーキを踏み間違えて…

運搬車で肥料を運ぼうとした男性（80代）がブレーキとアクセルを踏み間違えて急発進し、道路わきの崖を一〇メートルほど落下。途中で車両が木に引っかかり男性は窓を割って脱出しましたが、そのまま三〇メートル下まで転落し脊椎を損傷しました。近くで草刈りをしていた人が叫び声を聞いて駆けつけ、救急車を手配しました。

